

# アンケート結果と考察



本プロジェクトの内容を評価するために、参加者がどのような感想を持ったか等について、プロジェクト終了直後にアンケート調査を行った。



# アンケート結果と考察

本プロジェクトの内容を評価するために、参加者がどのような感想を持ったか等について行ったアンケート調査の結果と考察をまとめた。

※記入された「振り返りアンケート」は、P.53 を参照

## プロジェクト後の「振り返りアンケート」の目的

本プロジェクトの内容を評価するために、参加者がどのような感想を持ったか、期待に沿ったものであったか、効果を感じたか等について、プロジェクト終了直後にアンケート調査を行った。アンケートでは、当日の内容の評価に加えて、今後のプロジェクト内容の方向性を検討する際の資料とするために、今後の希望、改善点などについても尋ねた。

設問は全部で4問。うち2問がスケール尺度を用いて、回答者が自分の気持ちに最も当てはまるものを選択する形式。2問中に全部で9つの評価項目を設けた。残りの2問は自由回答形式である。

なるべく自由に、感じたままの意見を述べてもらうために、性別以外の個人プロフィールは無記名とした。

次ページ以降に、アンケート結果に基づく考察と、各設問への回答結果をまとめている。

回答者は14名。うち男性10名、女性4名である。

## 「振り返りアンケート」記入用紙

地域×大学  
MGP14  
MAGNET

**振り返りアンケート**

「地域×大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト」の参加お疲れ様でした。全行程が終了しました。さて最後に本プロジェクトについての印象を教えてください。

建次コミュニケーションバス (RC) 事業本部

1. 今回のプロジェクトについて、次の形容詞のどちらにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ 自分の気持ちに一番近い形容詞に、1行に1つずつ○を付けてください。

A: 興味深かった	5	4	3	2	1	退屈した
B: やりがいがあった	5	4	3	2	1	やりがいなかった
C: 自信が持てた	5	4	3	2	1	自信が持てなかった
D: 参加してよかった	5	4	3	2	1	参加したことを後悔した

2. 次の意見をどの程度支持しますか？ 自分の気持ちに一番近いものを選んでください。

「このようなプロジェクトを今後も続けて欲しい」  
 ①とてもそう思う  ②そう思う  ③思わない  ④まったく思わない

「同級生や後輩、友人に勧めたい」  
 ①とてもそう思う  ②そう思う  ③思わない  ④まったく思わない

「本プロジェクトでめざした学生が身につける3つのことについて、それぞれ、理解が深まったと思いますか？」

その1 (宮古島市での「小さな拠点」づくり)の取り組みに参加することで、**離島・過疎地域の地域課題を考慮**する  
 ①とてもそう思う  ②そう思う  ③思わない  ④まったく思わない

その2 (黒根県黒川町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」への参加体験を通して、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価することができるほか、地域づくり先進県における地域課題に対する取り組み事例を学ぶことができる)  
 ①とてもそう思う  ②そう思う  ③思わない  ④まったく思わない

その3 (他地域での事例などを参考に、宮古島山城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめ、プレゼン形式の報告を行うことで企画提案力を身につける)  
 ①とてもそう思う  ②そう思う  ③思わない  ④まったく思わない

→裏面もあります。

「振り返りアンケート」1ページ目

3. 全行程を終え、今回のプロジェクトに参加して、感じたこと気付いたこと、自分の学びとなったこと、成長したことを記入してください。

4. 本プロジェクトの内容について、こうした方がいいと思うアイデアを書いてください。

5. あなた自身について、あてはまる番号に○を付けてください。  
 性別 1. 男 2. 女

以上

「振り返りアンケート」2ページ目



# 参加してよかった！ ほぼ全員が高評価

※5番（最肯定評価）が93%、4番（肯定評価）をが7%であったので、概ね100%の満足度といってよいだろう。

## ■ アンケート結果を振り返って（結果概要）

プロジェクト内容に関する感想では、全般的に高評価を得る結果となった。設問1のA「興味深かった」、B「やりがいがあった」、D「参加してよかった」のスケール評価では、すべての参加者が5番もしくは4番を選択（肯定的意見）している。特に、A「興味深かった」、D「参加してよかった」の2つのスケール評価においては、それぞれ86%、93%が、5番（最肯定評価）を選択している。

設問1のC「自信が持てた」かどうかを尋ねた項目では、5番および4番の肯定的意見が合わせて86%であり、7%が中間評価（3番）、また、7%が2番のやや否定的評価となっている。大半の学生が自信を持てたと自己評価する一方で、更なる勉学・調査の必要性を感じている学生もいと受け取れる。

設問2の、「このようなプロジェクトを今後も続けて欲しい」「同級生や後輩、友人に勧めたい」の2つの項目においても、すべての参加者が、「とてもそう思う」もしくは「そう思う」と回答した（いずれも「とてもそう思う」が64%、「そう思う」が36%）。参加した学生たちは、今回のプロジェクトの有意義性を認め、これからも続けていくべきであると認識していることが分かった。

## 学生が身につける 「3つのこと」に関して、 参加学生から肯定的評価

設問2の後半では、「本プロジェクトでめざした学生が身につける3つのことについて、それぞれ、理解が深まったと思いますか」と、以下、3つの具体的な事柄について尋ねた。

その1：宮古島市での「『小さな拠点』づくり」の取り組みに参加することで、離島・過疎地域の地域課題を考える。

その2：島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」への参加体験を通して、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価することができるほか、地域づくり先進県における地域課題に対する取り組み事例を学ぶことができる。

その3：他地域での事例などを参考にして、宮古島市城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめ、プレゼン形式の報告を行うことで企画提案力を身につける。

これらの項目について、すべての学生から、「とてもそう思う」あるいは「そう思う」という回答が得られた。本プログラムを学生が有効に利用した証左と考えられよう。



# 机上の理論だけでなく、 体験し実践することの 重要生が再認識される！

前述のスケール評価の次に尋ねた、自由回答形式の設問3、設問4では、多くの学生から、今回のプロジェクトの有用性や各個人にとってどのような発見があったかなどに関して、非常に興味深い意見が多出している。

「全行程を終え、今回のプロジェクトに参加して、感じたこと、気付いたこと、自分の学びとなったこと、成長したこと」を聞いた問3において目立った意見の一つが、フィールドワークを行い実際に身をもって体験することの重要性への気付きである。例えば、「これまで教科書で“過疎”というものを学んできたが、実際にフィールドワークで目の当たりにすると学びが身になっていく」「椅子に座ってただ調べたことを学ぶだけではなく、体験などのフィールドワークを通して学ぶことが、一番学習になる」「地元の人と関わることでその良さなどを多く知ることができて貴重な体験ができた」「いろいろな人、考え方に触れられた」「地域の人々の困った声を直に聞くことができた」といった感想が挙がった。机上の理論だけでなく、体験し実践することの重要性が再認識された結果となっている。

また、「次回から理解をもっと深めて取り組みたい」「来年もぜひ参加したい」「また次回も参加したいなど感じた」など、継続的に取り組んでいきたいという声も多数あった。加えて、「活性化がすべてではない」「地域づくりの大変さに気付いた」「地域住民が一体となって行わなければ意味がない」「様々な地域の異なった文化、考え方に触れることで自分の今までの地域や考えが変化するいいきっかけとなった」「見えなかった部分が少しは見えたような気がした」「これまで『地域活性化＝観光地化』と思っていたが、地域活性化は地域住民が自分たちの力で地域を盛り上げて、地域を楽しむことが大事だと感じた。必ずしも観光客を集めて経済を回すだけでなく、地域住民が暮らしやすいシステムづくりが重要だと思った」など、参加したほぼすべての学生が自分なりの何らかの新しい発見をし、既存の価値観に囚われない実際的で有用な視点を身に付け、問題意識を新たにしている様子がうかがえた。

## 地域問題への取り組みに対する 学生たちの強い向上心に 応えることが課題

### 課題

本プロジェクトに関する改善アイデアを聞いた問4では、「もっと日にち（時間）をかける」「プレゼンの準備期間がもっとほしかった」「事前学習でいろいろと知っておくべき」などが挙がった。また、「宮古、島根ともに地域の学生との意見交換の場があればもっと良かったのでは」「他学部（の学生）を交えるともっと多様な意見が聞けるかもしれない」といった、ユニークな提案もあった。いずれの回答も、地域問題への取り組みに対する学生たちの強い向上心が汲み取れる結果となっている。そしてこれらはもちろん、今後の事業展開に大いに参考となると考えられるものばかりである。

次ページ以降に、集計結果の詳細を掲載している。

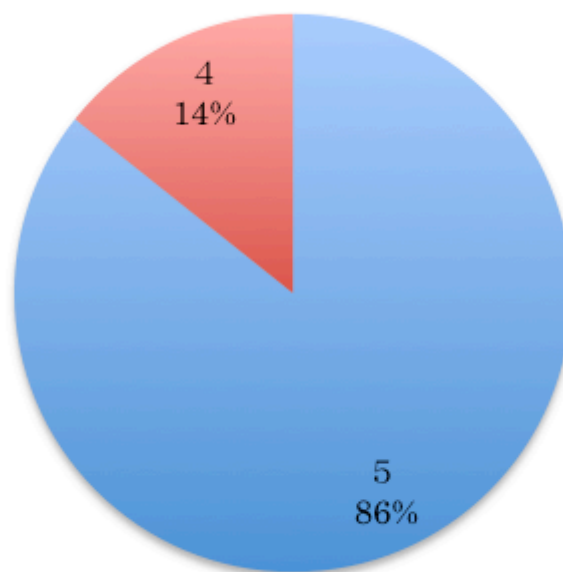


## ■ 各質問の結果

問1：今回のプロジェクトについて、次の形容詞のどちらにどのぐらい近い印象を持ちましたか？  
自分の気持ちに一番近い番号に、1行に1つずつ○を付けてください。

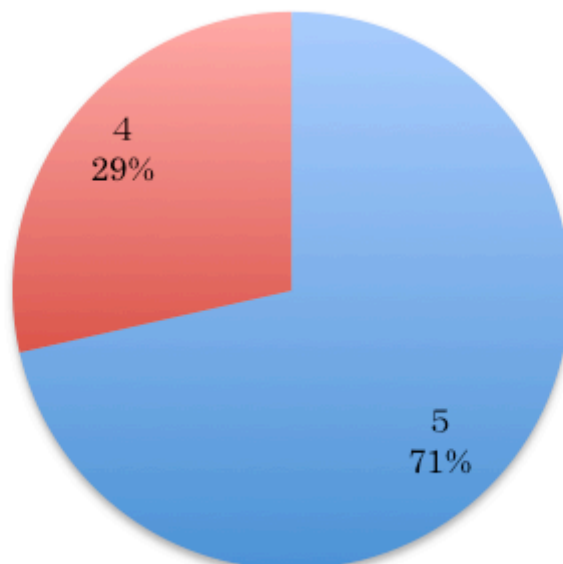
<今回のプロジェクトについて興味深かったか退屈したか>

A： 興味深かった      5    4    3    2    1      退屈した



<今回のプロジェクトについてやりがいがあったかなかったか>

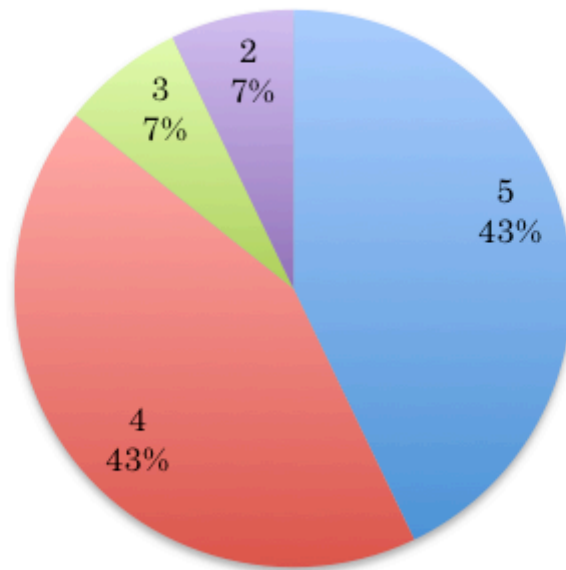
B： やりがいがあった    5    4    3    2    1    やりがいがなかった





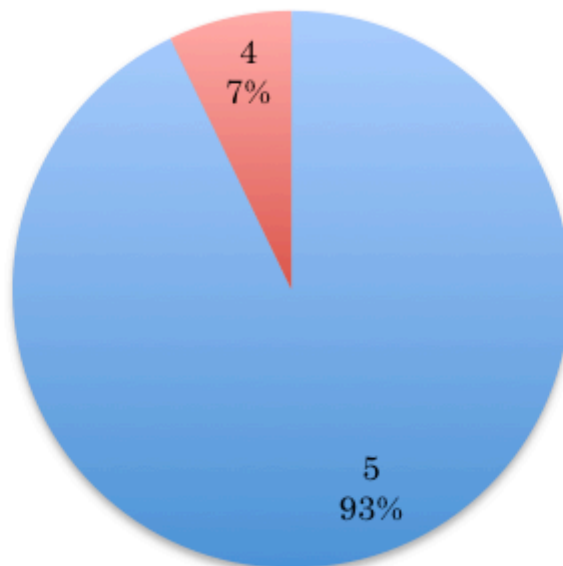
<今回のプロジェクトに参加して自信が持てたか>

C： 自信が持てた 5 4 3 2 1 自信が持てなかった



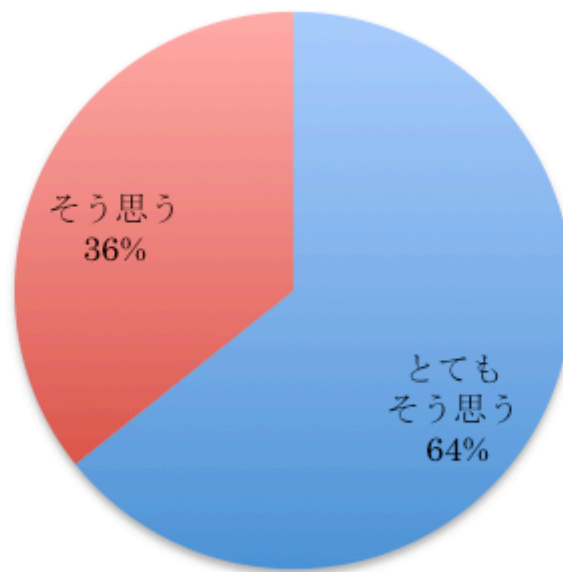
<今回のプロジェクトに参加してよかった>

D： 参加してよかった 5 4 3 2 1 参加したことを後悔した

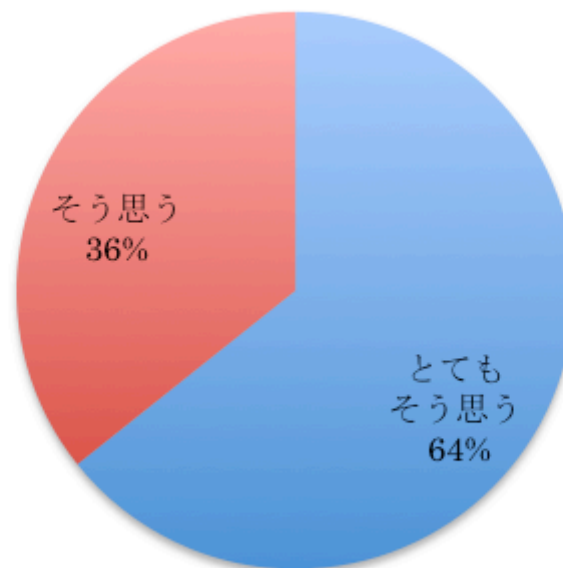




問2：次の意見をどの程度支持しますか？ 自分の気持ちに一番近いものを選んでください。  
「このようなプロジェクトを今後も続けて欲しい」  
(4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない)



「同級生や後輩、友人に勧めたい」  
(4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない)

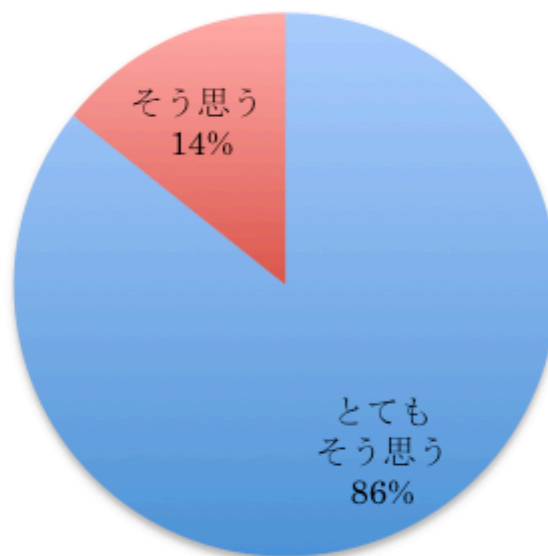




「本プロジェクトでめざした学生が身につける3つのことについて、それぞれ、理解が深まったと思いますか」

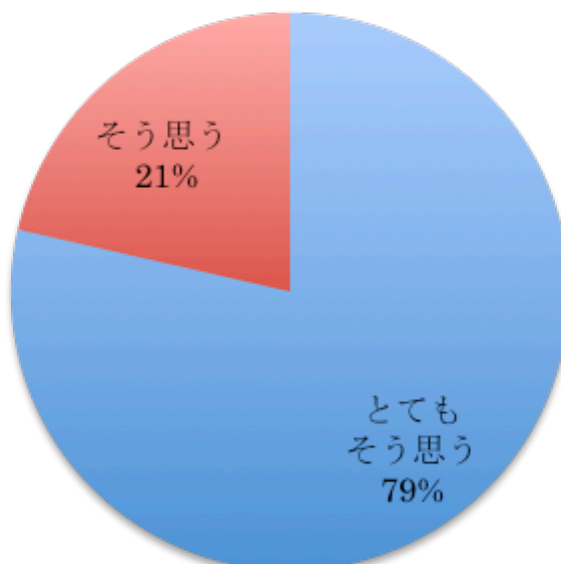
その1（宮古島市での『小さな拠点』づくり」の取り組みに参加することで、離島・過疎地域の地域課題を考える）

（4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない）



その2（島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」への参加体験を通して、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価することができるほか、地域づくり先進県における地域課題に対する取り組み事例を学ぶことができる）

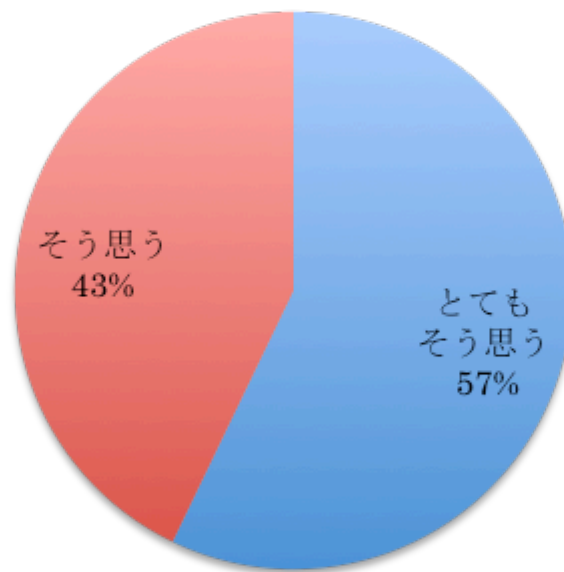
（4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない）







その3（他地域での事例などを参考にして、宮古島市城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめ、プレゼン形式の報告を行うことで企画提案力を身につける）  
（4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない）



問2：全行程を終え、今回のプロジェクトに参加して、感じたこと気付いたこと、自分の学びとなったこと、成長したことを記入してください。（原文ママ）

ID 1 今回の反省としては島根のことをもっと詳しく知ることが出来ず質問に答えきれなかった点が多々あった、次回から理解をもっと深めて取り組みたい。また宮古の人が何を求めているか理解が必要だと感じた。こうしたプロジェクトに参加できて成長につながったし、地域の課題も実感でき、自分にもできることはないかと考える良い機会になりました。

ID 2 今回のプロジェクトで、同じ沖縄でも自分が知らない問題がたくさんあるんだと感ずることができました。このプロジェクトで人間関係の大切さ、琉球大学に対する信頼度を学びました。来年もぜひ参加していきたいです。参加して良かったです。

ID 3 今まで全く知らない土地に行ったことが無かったが、今回のプロジェクトを通していろんな人、考え方に触れられた。また学んだことを地元にも活かしたい。

ID 4 いなかの良さ。活性化がすべてではない。人と人との交流によってあたたかさを知った。仲間との信頼関係。

ID 5 地域の人々の困った声というものを直に聞くことができた。これまで教科書で“過疎”というものを学んできたが、実際にフィールドワークのようにして目の当たりにすると学びが身になっていく感覚を持てた。

ID 6 今回のプロジェクトに参加してみて地域づくりの大変さという事に気付かされました。自分が何かをすれば地域が変わるという事ではなくて地域住民が一体となって行わなければ意味がないです。島根に行って見て外から見た沖縄、宮古島というのを知り、宮古島の地域振興のヒントになりました。発表も好評を頂いたので自分の自信にもなり、また次回も参加したいなと感じました。

ID 7 今回のプロジェクトでは、宮古の空き家問題を島根での具体例を参考にして考える機会となった。貴重な体験が出来て良かった。



ID 8 なかなかできない体験などを通して、都会だけでない田舎の良さや、これからに必要な課題について考えることができた。地域を活性化していくには、体験などを通して、目で耳で肌でその地域を感じる事が大切で、その地域の人と一緒に問題解決に向けて考えることが、活性化への第一歩であると感じた。また、椅子に座ってただ調べたことを学ぶだけではなく、体験などのフィールドワークを通して学ぶことが、自分の身に一番学習できるなと思った。様々な地域の異なった文化、考え方に触れることで自分の今までの地域に対する考えが変化するいいきっかけとなった。

ID 9 地域について考えるということだけでなく、多くのことが勉強になりました。過疎化という問題は、今からの日本に切っても切り離せない問題です。その対策、受け入れ方を考えている人々と関わったことは、これからの人生で何かしら役に立つだろうと感じました。また、普段は関われない他学部の人や他県の人と関わったこともこのツアーに参加して良かったと思った点でした。

ID 10 どう提案すれば正解であるのか分からなかったけど、自分なりにしっかりと考えて発表できたと思う。今まで以上に地元宮古島に関わり、見えなかった部分が少しは見えたような気がした。良い部分もたくさんあるが、同様に課題も多く残っているため、これで終わりではなく今後も自分なりに考えていきたいと思う。島根との関わりも大切にし、今後とも絆を深めていけたらいいと感じた。

ID 11 これほど地域おこしに向き合ったことはなかったのでプロジェクトに参加することで、どうしたら地域は活性するのか、と普段は考えないことを考えさせられたり、他の人の意見を聞いたり、とても良い機会でした。将来公務員になりたいくて、空き家問題など地域政策に関するプロジェクトだと思って参加したのですが、ドンピシャでした。また、こういったプロジェクトがあったら参加したいです。

ID 12 地域づくり、地域おこしについて、真剣に考えることができるよい機会だった。でも同時に、地域の方々はどう感じているのか、生活圏内に入り込むことのむずかしさも感じた。

ID 13 「地域活性化＝観光地化」と以前までは思っていたが、このプロジェクトに参加して、地域の活性化は地域住民が自分たちの力で地域を盛り上げて、地域を楽しむことが大事なんだな、と感じました。なので、必ずしも観光客を集めて経済をまわすだけでなく、地域住民が暮らしやすい、システムづくりが重要だと思いました。また、地域の弱点を把握し、頼るところは頼る、協力してもらおう、といったように、人の力が重要な役割を担っているということを改めて学びました。

ID 14 自分の知っている地域が問題を抱えていることに気付くことができた。全然知らない地域に行くことで、色々新鮮だった。その地元の人と関わることでその良さとかたくさん知ることができて貴重な体験ができた。

問4：本プロジェクトの内容について、こうした方がいいと思うアイデアを書いてください。(原文ママ)

ID 1 もっと日にちをかける(時間)。

ID 2 学年ごとに同じ人数が欲しかった。

ID 4 体験しに行った地域の事前学習でいろいろと知っておくべき。

ID 5 宮古島友利地区での視察をもっとしっかりとしたかった。

ID 6 もっと過疎地域、その地域で取り組んでいる事例について現地に行って学びたい。

ID 8 短期的なプロジェクトだけでなく、長期的に学生が考えたアイデアを実行できる場も設けると学生の今後の活動や地域の人のためにもなるのではと思った。自分たちの考えを実行できる機会の提供とサポートもプロジェクトに含んでほしい。

ID 10 先生方に頼りすぎた部分があって、知識が足りない部分が多かった。

ID 11 もう少し他学部を交えると、もっと多様な意見が聞けるのかな、と思いました。

ID 12 最終報告会で、一番感じたことですが、長期的に続けた方がいいプログラムだと思いました。

ID 13 宮古、島根ともに地域の学生との意見交換の場があればもっと良かったのかなと、思いました。

ID 14 プレゼンの準備期間がもっとほしかったです。